

参考資料

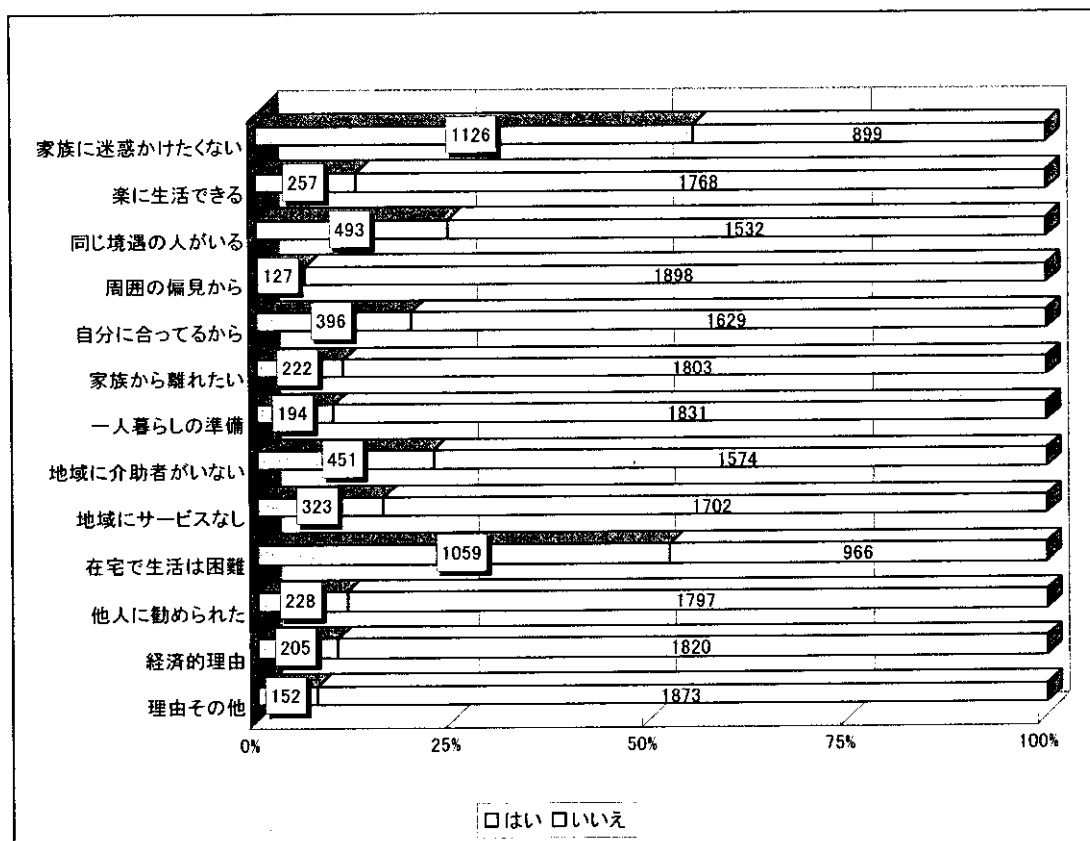
2004/3/10 小峰和守

利用者対象

問5 あなたはどのような理由で施設に入居しましたか。あてはまる番号を全て選び、その番号に○をつけてください。

- | | |
|----------------------------------|-------------------|
| 1. 家族に迷惑をかけたくなかったから | 8. 地域に介助者がいないから |
| 2. 楽に生活できるから | 9. 地域でサービスがなかったから |
| 3. 同じ境遇の人たちと生活できるから | 10. 在宅で生活できないから |
| 4. 周囲の偏見を感じたから | 11. 他人にすすめられたから |
| 5. 施設生活が自分にあっていると思ったから | 12. 経済的な理由があったから |
| 6. 家族から離れて生活してみたかったから | 13. その他 |
| 7. 将来一人暮らしをするための準備期間とした
かったから | |

施設入所の理由	はい	いいえ
家族に迷惑かけたくない	1126	899
楽に生活できる	257	1768
同じ境遇の人がいる	493	1532
周囲の偏見から	127	1898
自分に合ってるから	396	1629
家族から離れたい	222	1803
一人暮らしの準備	194	1831
地域に介助者がいない	451	1574
地域にサービスなし	323	1702
在宅で生活は困難	1059	966
他人に勧められた	228	1797
経済的理由	205	1820
理由その他	152	1873



「はい」が「いいえ」を若干上回ったのは「家族に迷惑をかけたくない」、「在宅で生活は困難」のみで、それ以外は「いいえ」の方が圧倒的に多いものばかりであった。どの人にも共通する普遍的な理由付けというものは少なく、それぞれの人々が持つ背景によって理由にも多様性が見られているといえる。

「地域に介助者がいない」「地域にサービスなし」に「はい」と答えた人が約2割ずつおり、地域サービス資源の充実により在宅を目指せる人たちが潜在的に存在することをうかがわせる。

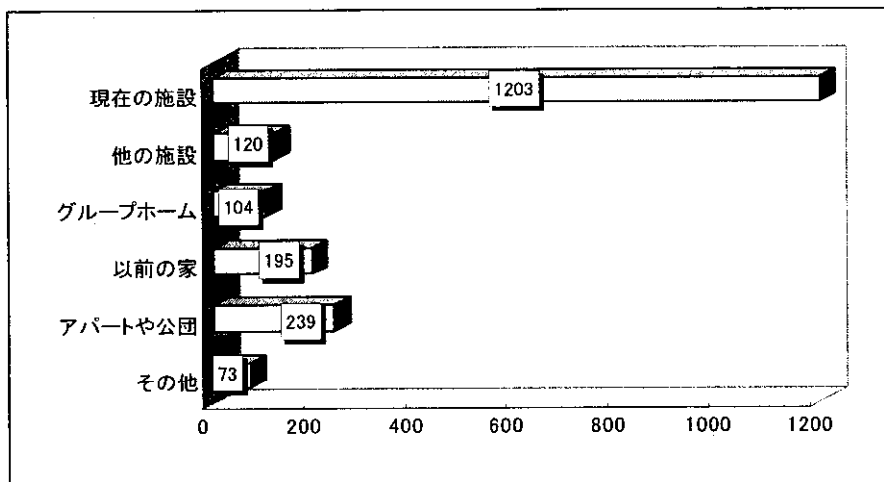
利用者対象

問 38 これからの住まいについて伺います。あなたはどのような場所で生活したいと考えていますか。あてはまる番号を一つ選び、その番号に○をつけてください。

- 1. 現在の施設で暮らしたい
- 2. 他の施設に移りたい
- 3. グループホームなどで暮らしたい
- 4. 以前生活していた家で暮らしたい
- 5. アパートや公団住宅で自立して暮らしたい
- 6. その他()

これからの住まいは

		人数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	現在の施設	1203	58.9	62.2	62.2
	他の施設	120	5.9	6.2	68.4
	グループホーム	104	5.1	5.4	73.8
	以前の家	195	9.6	10.1	83.9
	アパートや公団で自立生活	239	11.7	12.4	96.2
	その他	73	3.6	3.8	100.0
	合計	1934	94.8	100.0	
欠損値	999.00	107	5.2		
	合計	2041	100.0		



現在居住している療護施設が生活の場として適切なサービスを展開していると感じている居住者が多いのであるから、今後どこで暮らしたいのかという回答でも、1203人(62.2%)の居住者が「現在の施設」と答えている。このことは、施設を終の棲家と感じている居住者が多いということである。だとすれば、今後、療護施設でも高齢化対策や終末期の医療体制が整備されることを居住者は求めているのではないと思われる。

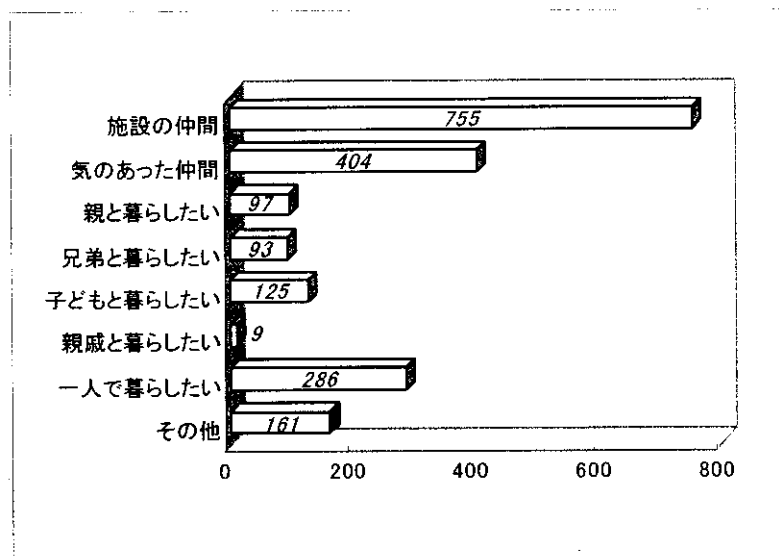
利用者対象

問 44 これから誰と暮らしたいですか。あてはまるものを一つ選び、その番号に○をつけてください。

- 1. 施設の仲間と暮らしたい 4. 兄弟と暮らしたい 7. 一人で暮らしたい
- 2. 気のあった仲間と暮らしたい 5. 子どもと暮らしたい 8. その他
- 3. 親と暮らしたい 6. 親戚と暮らしたい ()

これから誰と暮らしたいか

		人数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	施設の仲間	755	37.0	39.1	39.1
	気のあった仲間	404	19.8	20.9	60.1
	親と暮らしたい	97	4.8	5.0	65.1
	兄弟と暮らしたい	93	4.6	4.8	69.9
	子どもと暮らしたい	125	6.1	6.5	76.4
	親戚と暮らしたい	9	.4	.5	76.8
	一人で暮らしたい	286	14.0	14.8	91.7
	その他	161	7.9	8.3	100.0
	合計	1930	94.6	100.0	
欠損値	999.00	111	5.4		
合計	2041	100.0			



これから一緒に暮らしたい人として、施設の仲間が 39.1%、気のあった仲間が 20.9%、一人暮らしが 14.8%と家族・親戚以外との同居を希望している人が多い。家族・親戚と地域で暮らしたいと考えている居住者が少ないという結果であった。施設入居の理由が、「家族に迷惑をかけたくない」「在宅での生活が困難」と考えていた居住者が多かったことから、地域にサービスが完備され、家族に介護などで迷惑がかからないという状況ならば、地域で家族と生活することを選ぶ居住者が増えるのであろうと思われる。

施設対象

問 19 高齢化した居住者に関して特別な対策を考えていますか、いませんか。あてはまる番号を一つ選び、その番号に○をつけてください。

- 1. 考えていない
- 2. 考えている(具体的に))

施設対象

問 20 施設から自立して一人で生活したい居住者に対して具体的な支援体制がありますか、ありませんか。あてはまる番号を一つ選び、その番号に○をつけてください。

- 1. ない
- 2. ある(具体的に))

施設対象

問 22 居住者の重度化について、何か具体的な対策がありますか、ありませんか。あてはまる番号を一つ選び、その番号に○をつけてください。

- 1. ない
- 2. ある(具体的に))

高齢居住者への特別ケア

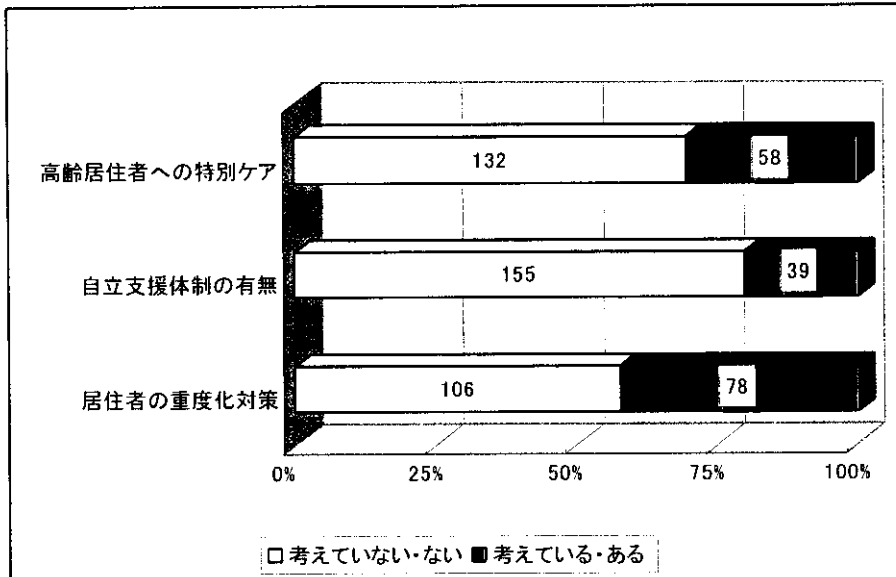
		施設数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	考えていない	132	67.7	69.5	69.5
	考えている	58	29.7	30.5	100.0
	合計	190	97.4	100.0	
欠損値	999.00	5	2.6		
合計		195	100.0		

自立支援体制の有無

		施設数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ない	155	79.5	79.9	79.9
	ある	39	20.0	20.1	100.0
	合計	194	99.5	100.0	
欠損値	999.00	1	.5		
合計		195	100.0		

居住者の重度化対策

		施設数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ない	106	54.4	57.6	57.6
	ある	78	40.0	42.4	100.0
	合計	184	94.4	100.0	
欠損値	999.00	11	5.6		
合計		195	100.0		



高年齢居住者への特別なケア、自立支援体制の有無、重度化対策を比較すると、現在の療護施設が、早急の課題であると認識している順序は、重度化対策、高年齢居住者への特別なケア、自立支援体制の整備となる。意識としては重度化対策に傾いていることがわかる。居住者の状況が重度化しているからなのであろう。

次に重度化対策を実施している施設としていない施設で、高年齢居住者への特別なケアを考えているかいないのかをクロス集計してみた。居住者の重度化と高齢化はリンクしているのではないと思われるからである。結果は重度化対策がある施設では高年齢居住者への特別なケアを考えている施設が 14.4%であり、考えていない施設が 85.6%であった。一方、重度化対策を実施している施設では高年齢居住者への特別なケアを考えている施設が 52.6%であり、考えていない施設は 47.4%であった。

居住者の重度化対策と高年齢居住者への特別なケアのクロス表

		高年齢居住者への特別なケア		合計	
		考えていない	考えている		
居住者の重度化対策	ない	度数	89	15	104
		居住者の重度化対策の%	85.6%	14.4%	100.0%
	ある	度数	37	41	78
		居住者の重度化対策の%	47.4%	52.6%	100.0%
合計	度数	126	56	182	
	居住者の重度化対策の%	69.2%	30.8%	100.0%	

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)	正確有意確率(両側)	正確有意確率(片側)
Pearson のカイ2乗	30.439	1	.000		
連続修正	28.674	1	.000		
尤度比	30.936	1	.000		
Fisher の直接法				.000	.000
線型と線型による関連	30.271	1	.000		
有効なケースの数	182				

この比率には有意差のあることが示されていることから、重度化対策とは居住者の高齢化を含んだ総合的な対策であると捉えている施設の割合が高いということである。

居住者の重度化対策と自立支援体制の有無のクロス表

		自立支援体制の有無		合計
		ない	ある	
居住者の重度化対策	ない	度数 92	13	105
		居住者の重度化対策の%	87.6%	12.4%
	ある	度数 54	24	78
		居住者の重度化対策の%	69.2%	30.8%
合計		度数 146	37	183
		居住者の重度化対策の%	79.8%	20.2%

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)	正確有意確率(両側)	正確有意確率(片側)
Pearson のカイ2乗	9.381	1	.002		
連続修正	8.276	1	.004		
尤度比	9.327	1	.002		
Fisher の直接法				.003	.002
線型と線型による連関	9.330	1	.002		
有効なケースの数	183				

重度化対策を実施している施設が自立支援対策に関してはどのように捉えているのかをクロス集計してみた。

重度化対策がない施設では、87.6%の施設で自立支援体制がないと答えており、12.4%の施設があると答えている。一方、重度化対策があると答えた施設では30.8%の施設が自立支援体制があると答えており、69.2%の施設がないと答えている。この比率には有意差があることがわかった。

重度化対策を実施するという事は、施設で身体的に、知的なレベルで重度になってきた人の特別な支援を実施するという事であるが、この支援に入らないグループにも何らかの対策が必要であることを意識させているということである。つまり、何らかの対策を施設全体で取り上げようとするれば、その問題の周辺にどのような問題があるのかまでを射程に捉えて、総合的な対策を考えていくようになることが示されたといつてよい。

問 20 での補足

施設に自立支援体制が『ある』と回答した具体的な例は、1) 障害者用に作られた職員宿舎を提供している。そこで障害者が地域で暮らす実習ができる、2)市と協力して、一定期間措置を切らずに戻れるような体制をとっている、3)公益事業として法人が経営する障害者向けアパート（世帯向け 13室、単身者向け 4室）及び福祉ホームに入居し、法人が受託している各種在宅サービスなどによって支援を実施している、4)障害者生活支援センター、ホームヘルプ事業、訪問看護事業などの在宅事業が完備されている、5)自立生活支援センターと協力、などである。

しかし、全体を見ると、①どれも具体的なプログラムを持って自立生活を支援しているわけではないこと、②同一法人で多様な施設形態、在宅サービスを持っているところでは、それなりの支援ができる状態なのではないのかと思われること、③どれも比較的知的に障害がなく自分で判断できる入所者に対する自立支援体制であることがわかる。

以上のデータは「身体障害者療護施設居住者の生活に関する調査」（2002年1月、療護施設自治会全国ネットワークが調査。380施設中 195施設から回答、回収率は約 50%）による